

科目名称	初等教科教育法(音楽) (1組)
授業コード	BN305
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (music)
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	石橋 裕子, 飯泉 祐美子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>3.ディプロマポリシーにある「教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案」するために、中学校・高等学校等で教育経験のある石橋と飯泉とが担当する。</p> <p>1. 学習指導要領に沿って、音楽を指導する上で必要な事項を領域ごとに理解し、主に低学年を指導できるような基礎的な指導技能を修得することを目的とする。</p> <p>2. 低学年を指導できるよう、すべての領域の指導方法を習得することを目的とする。</p> <p>3. 協同学習 (cooperative learning) やグループワークによる講義を経験し、学習指導案立案時に反映することを目的とする。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>中学校・高等学校等で教育経験のある石橋と飯泉とが担当する。</p> <p>毎時間「単元見通し表」「学修の振り返りシート」等を用いて学修を振り返る。また、配慮の必要な児童への留意点を解説する等、常に学校現場を意識した授業を展開する。</p> <p>全員が指導案を立案し、選ばれた2名が、それぞれ45分の授業を実施する。</p>
到達目標	<p>カリキュラムポリシーにある「各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成」するために以下を中心とした目標を設定する。</p> <p>1 音楽を指導する上で必要な音楽理論等を理解したうえで、児童に音楽を愛好する心情が育つよう、楽譜を読んだり楽曲を解釈して表現できることを目指す。</p> <p>2 低学年の授業が行えるよう、領域ごとの様々な指導方法を理解することを目指す。</p> <p>3. 地道な練習や事前課題を通じて、指導能力向上のための新たな課題を見つける。</p>
計画・内容	<p>毎時間パワーポイントとワークシート等を使用し、協同学習 (cooperative learning) 等で学習を進める。協同学習での学びは「主体的・対話的で深い学び」で指導できるよう、いくつかのストラクチャ (技法) を用いて学ぶ。</p> <p>第1回：オリエンテーション (元高校等教員石橋・元中学校教員飯泉) 担当教員の自己紹介を聞く 協同学習 (cooperative learning) による講義の進め方を知る 音楽科の目標を知る <実施するストラクチャ> 交互発言・交互読み・round robin</p> <p>第2回：音楽科の指導内容 (表現・鑑賞・共通事項) を理解する (石橋) <実施するストラクチャ> 交互発言・mix pair share</p> <p>第3回：音楽科の学習指導計画について・評価についてを理解する (石橋) <実施するストラクチャ> おでかけバス (特派員) ・round robin</p> <p>第4回：歌唱の学習と指導について知る (石橋) <実施するストラクチャ> 交互発言・round robin</p> <p>第5回：歌唱の授業づくりに関する討論をする (石橋) <実施するストラクチャ> mix pair share</p> <p>第6回：器楽の学習と指導の方法・授業づくりを知る (飯泉)</p> <p>第7回：音楽づくりの学習と指導を知る (飯泉)</p>

計画・内容	<p>第8回：音楽づくりの授業に関する討論をする（飯泉）</p> <p>第9回：鑑賞の学習と指導を知る（飯泉）</p> <p>第10回：鑑賞の授業づくりに関する討論をする（飯泉）</p> <p>第11回：児童の音楽的発達と教育実践上の実際と課題を知る（石橋） <実施するストラクチャ> 交互発言・round robin・mix pair share</p> <p>第12回：指導案作成上の留意点を知り指導案作成の実際を理解する（石橋） <実施するストラクチャ> 交互発言・交互読み</p> <p>第13回：和楽器の指導について考察する（飯泉・和楽器奏者である外部講師）</p> <p>第14回：模擬授業「A表現領域」と研究協議1（石橋・飯泉） <実施するストラクチャ> round robin</p> <p>第15回：模擬授業「B鑑賞領域」と研究協議2（石橋・飯泉） <実施するストラクチャ> round robin</p>
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は教科書、パワーポイント、ワークシート等を併用して展開する。 2. 石橋の授業は協同学習（cooperative learning）で、飯泉の授業はグループワークで行う。 3. 石橋の授業では、協同学習のいくつかのストラクチャ（技法）を用いて学ぶ。 4. 事前学習を行っていることを前提に講義を展開する。 5. パワーポイントのハンドアウトは、授業終了時に配布する。 6. 講義と演習とで授業を展開する
能動的な学びの実施	<p>毎時間教科書、パワーポイント、ワークシート等を使用し、ワークシートは復習に活用する。</p> <p>協同学習では、単元見通し表（ループリック）に毎時間の学びを記録し、学修予定と学んだこと等を視覚的に確認する。</p>
授業時間外の学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時間配布される次時のワークシートを予習（事前学習）とし、さらに本時で記入したワークシートを理解できるまで取り組むことを復習とする（合計57時間程度） 2. 第13回終了後に学習指導案を立案する（2時間程度） 3. 返却された学習指導案を修正する（1時間程度）
教科書・参考書	<p><教科書></p> <p>「しょうがくせいのおんがく1」教育芸術社</p> <p>「小学生の音楽2」教育芸術社</p> <p>「小学生の音楽3」教育芸術社</p> <p>「小学校指導要領解説 音楽編」文部科学省</p> <p>「ソプラノリコーダー」（バロック式・ジャーマン式どちらでもよい）</p> <p><[参考書]></p> <p>「最新 初等科音楽教育法」初等科音楽教育研究会 音楽之友社</p>
成績評価方法と基準	<p>課題20%、授業での学びの評価（ループリック）30%、期末試験50%等を総合して評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時間回収するループリックにはコメントを記し、次時に返却する。 2. 学習指導案は添削して返却する。
オフィスアワー	<p>Campusquareを参照</p>
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に、免許必修科目である「音楽基礎」、同選択科目である「器楽」「声楽」を履修していることが望ましい。 3. 理由のない遅刻や早退は欠席扱いとする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評	<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内インフラを使用した課題学修を中心とした授業を、教科書とともにパワーポイントやワークシート等を併用して展開する。

価方法と基準」	<p>2.事前学習を行っていることを前提に授業を展開する。</p> <p>3.パワーポイントは音声をつけて配信する。</p> <p>成績評価方法</p> <p>1.課題及び振り返りシート等の提出物50%、期末試験50%、等を総合して評価する。</p> <p>2.課題が期限に遅れることなく提出されることを出席の原則とする。</p>
---------	---

科目名称	初等教科教育法(音楽) (2組)
授業コード	BN305B
英語名称	Teaching Methodology of Elementary Subjects (music)
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	石橋 裕子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>ディプロマポリシーにある「教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案」するために、中学校・高等学校等で教育経験のある石橋が担当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領に沿って、音楽を指導する上で必要な事項を領域ごとに理解し、主に低学年を指導できるように基礎的な指導技能を修得することを目的とする。 2. 低学年が指導できるよう、すべての領域の指導方法を習得することを目的とする。 3. 協同学習 (cooperative learning) による講義を経験し、学習指導案立案時に反映することを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>中学校・高等学校等で教育経験のある石橋が担当する。</p> <p>毎時間「単元見通し表」「学修の振り返りシート」等のルーブリックを用いて学修を振り返る。また、配慮の必要な児童への指導上の留意点を解説する等、常に学校現場を意識した授業を展開する。</p> <p>全員が指導案を立案し、選ばれた2名が、それぞれ45分の授業を実施する。</p>
到達目標	<p>カリキュラムポリシーにある「5. 各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成」するために以下を中心とした目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽を指導する上で必要な音楽理論等を理解したうえで、児童に音楽を愛好する心情が育つよう、楽譜を読んだり楽曲を解釈して表現できることを目指す。 2 低学年の授業が行えるよう、領域ごとの様々な指導方法を理解することを目指す。 3 地道な練習や事前課題を通じて、指導能力向上のための新たな課題を見つける。
計画・内容	<p>毎時間パワーポイントとワークシート等を使用し、協同学習 (cooperative learning) で学習を進める。協同学習での学びは「主体的・対話的で深い学び」で指導できるよう、いくつかのストラクチャ (技法) を用いて学ぶ。</p> <p>第1回：オリエンテーション 担当教員の自己紹介を聞く 協同学習 (cooperative learning) による講義の進め方を知る 音楽科の目標を知る <実施するストラクチャ> 交互発言・交互読み・round robin</p> <p>第2回：音楽科の指導内容 (表現・鑑賞・共通事項) を理解する <実施するストラクチャ> 交互発言・mix pair share</p> <p>第3回：音楽科の学習指導計画について・評価についてを理解する <実施するストラクチャ> おでかけバズ (特派員) ・round robin</p> <p>第4回：歌唱の学習と指導について知る <実施するストラクチャ> 交互発言・round robin</p> <p>第5回：歌唱の授業づくりに関する討論をする <実施するストラクチャ> mix pair share</p> <p>第6回：器楽の学習と指導の方法・授業づくりを知る <実施するストラクチャ> round robin</p> <p>第7回：和楽器の指導について考察する (和楽器奏者である外部講師)</p>

計画・内容	<p>第8回：音楽づくりの学習と指導を知る<実施するストラクチャ>round robin・Think-Pair-Share 第9回：音楽づくりの授業に関する討論をする<実施するストラクチャ>round robin・Think-Pair-Share 第10回：鑑賞の学習と指導を知る<実施するストラクチャ>round robin・Think-Pair-Share 第11回：鑑賞の授業づくりに関する討論をする<実施するストラクチャ>round robin・Think-Pair-Share・ジグソー 第12回：児童の音楽的発達と教育実践上の実際と課題を知る<実施するストラクチャ>交互発言・round robin・mix pair share 第13回：指導案作成上の留意点を知り指導案作成の実際を理解する<実施するストラクチャ>交互発言・交互読み 第14回：模擬授業「A表現領域」と研究協議1<実施するストラクチャ>round robin 第15回：模擬授業「B鑑賞領域」と研究協議2<実施するストラクチャ>round robin</p>
授業の進め方	<p>1.事前学習を行っていることを前提に、パワーポイントとワークシート等を併用して授業を展開する。 2.協同学習のいくつかのストラクチャ（技法）を用いて学ぶ。 3.講義と演習とで授業を展開する。</p>
能動的な学びの実施	<p>毎時間パワーポイントやワークシート等を使用し、ワークシートは前時に配付する。 協同学習では、単元見通し表（ループリック）に毎時間の学びを記録し、学修予定と学んだこと等を視覚的に確認する。</p>
授業時間外の学修	<p>1．毎時間配布される次時のワークシートを予習（事前学習）とし、さらに本時で記入したワークシートを理解できるまで取り組むことを復習とする（合計57時間程度） 2．第13回終了後に学習指導案を立案する（2時間程度） 3．返却された学習指導案を修正する（1時間程度）</p>
教科書・参考書	<p><教科書> 「しょうがくせいのおんがく1」教育芸術社 「小学生の音楽2」教育芸術社 「小学生の音楽3」教育芸術社 「小学校指導要領解説 音楽編」文部科学省 「ソプラノリコーダー」（ジャーマン式が望ましい） <[参考書]> 「最新 初等科音楽教育法」初等科音楽教育研究会 音楽之友社</p>
成績評価方法と基準	<p>課題20%、授業での学びの評価（ループリック）30%、期末試験50%等を総合して評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>1.毎時間回収するループリックにはコメントを記して返却する。 2.学習指導案は添削して返却し、必要に応じて再提出を求める。</p>
オフィスアワー	<p>Campusquareを参照</p>
留意事項	<p>1.事前に、免許必修科目である「音楽基礎」、同選択科目である「器楽」「声楽」を履修していることが望ましい。 3．理由のない遅刻は欠席扱いとする。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 1.学内インフラを使用した課題学修を中心とした授業を、教科書とともにパワーポイントやワークシート等を併用して展開する。 2.事前学習を行っていることを前提に授業を展開する。 3.パワーポイントは音声をつけて配信する。 成績評価方法 1.課題及び振り返りシート等の提出物50%、期末試験50%、等を総合して評価する。</p>

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	2.課題が期限に遅れることなく提出されることを出席の原則とする。
------------------------------------	----------------------------------